

佐藤 亮一(さとう・りょういち)

1、プロフィール

翻訳家。毎日新聞社記者。第一回翻訳家国際会議に出席。日本翻訳家協会創立に関わり会長を務める。国際翻訳賞を受賞。数々の名作の翻訳者として知られる。

<生没>

1907(明治 40)年 10 月 18 日～1994(平成6)年 10 月 1 日

<代表作>

「北京収容所」

翻訳「翼よ、あれがパリの灯だ」「大地」「北京好日」「第二次世界大戦」

<青森との関わり>

青森県三戸郡名久井村(現南部町)の生まれ。八戸中学に3年まで在学ののち上京。名川町名誉町民。

2、作家解説

明治 40 年三戸郡名久井村に生まれた。小中野小学校、八戸中学、盛岡中学を経て、慶應義塾大学法学部政治科を卒業後、昭和7年時事新報社に入社する。卓越した英語力を発揮し記者活動を続ける。11 年同社が解散したため東京日日新聞社に入社。福島支局勤務後、中国特派員として中国各地を取材し、北京支局で終戦を迎える。しかし熱病で入院中、資料所持容疑で不当逮捕され、1年5ヶ月の収容生活を強いられることになる。21 年4月から翌年9月までの獄中生活を監視の目を逃れながら克明に記録していった。この日記をこよりとして衣服に縫いこみ命がけで日本に持ち帰り、16 年後の昭和 38 年「北京収容所」として出版した。戦争の悲惨さを語る貴重な証言である。

釈放後毎日新聞東京本社に復帰、勤務のかたわら本格的な翻訳活動に入る。林語堂「北京好日」やチャーチル「第二次大戦」など大作の翻訳を続けていった。

日本翻訳家協会創立時は理事に就任、この他日本ペンクラブ、日本文芸家協会に所属する。33年7月にはポーランドでの第1回翻訳家国際会議に日本代表として出席。以後もアジア作家会議などに参加し、精力的に活動をしていく。59年国際翻訳家連盟より国際翻訳賞を受賞。63年から日本翻訳家協会会長を務め、日本の翻訳文化発展に多大な功績を残した。リンドバーグ著「翼よ、あれがパリの灯だ」パールバック著「大地」など多くの名翻訳を残した。著訳書は180点余。平成6年10月1日87歳で没。

3、資料紹介

○『北京収容所 私の獄中日記』

図書

1986(昭和61)年12月

130mm×187mm

毎日新聞社特派員として中国各地を従軍取材中の筆者が、中共資料所持の容疑で逮捕され収容所生活を強いられる。昭和21年4月から22年7月釈放までの1年半の過酷な体験を克明に記録した。昭和38年河出書房から刊行、絶版となっていたものをサイマル出版会から決定版として出版した。